

## Wyse Thin OS 7.1 Build 033 Japanese

### 対象製品:

モデル	ファームウェア	備考
S10	RCA_wnos.jp	ネットブートのみ(下記注意事項参照)
C10LE	C10_wnos.jp	
V10LE/V10L	VL10_wnos.jp	デュアルモニター(V10L Dual Monitor)を含む
R10L	R10_wnos.jp	

### S10 利用時の注意事項:

S10 シンククライアント版では、ファームウェアのサイズ制限により、ネットブート方式によるファームウェア運用が必要となります。Wyse ThinOS バージョン 7 以降の S10 利用においては、システム環境に管理用 FTP サーバー(設定 INI ファイルを配置するサーバー)の常備設置が必要となります。

### ReadMe の履歴:

Version	日付	変更内容
1.00	2011 年 10 月	初版

### シンククライアントシステム利用/導入にあたる注意事項

シンククライアントシステムは、様々なサードベンダーコンポーネントとの組み合わせで実現されます。アプリケーション、ソフトウェア、サーバー、ネットワーク、周辺機器、各種設定の組み合わせにより実現されます。このため、システム導入前に必ず利用/導入するのと同じ環境/組み合わせ(ソフトウェア、ハードウェア、各種設定、ネットワーク環境)での十分な検証を行い、導入に必要な全ての機能/パフォーマンス要件を満たしているかを確認する必要があります。

本 ReadMe では、Wyse ThinOS に対応/テスト済みの各種サードベンダー製品情報を掲載しております。これは、Wyse 社での基本的なテストを実施したことを示しており、各製品の全ての機能、その他製品や環境との組み合わせによる動作保証が行われるものではありません。

特定システム環境(ハードウェア、ソフトウェア、各種設定、ネットワーク環境等)下で Wyse 製品に問題が発生する場合、Wyse 社では、ハードウェア/ソフトウェアの観点から調査を実施させていただきます。ただし、シンククライアントシステムの構造上、もしくはサードベンダー製品/環境との関連性により、対応ができない場合があります。この様な場合、Wyse 社製品内でのワークアラウンド(回避策)やシステム設定変更などのご対応をいただく場合がございます。システム導入前の各種製品/環境とのインテグレーション試験では、十分な検証が必要となります。

### 概要(目次)

- Version 7.1 Build 033 における新機能と変更点
- Version 7.1 Build 033 における修正内容
- 対応システム環境
- ファームウェア(ビルド)の詳細
- 周辺機器とその他ハードウェア対応
- 既知問題/制限事項
- Appendix A: Wyse ThinOS 機能の補足説明
- Appendix B: S10 におけるネットブートの説明

## Version 7.1 Build 033における新機能と変更点:

本リリースにおける追加機能と変更点を下記に示します。

### 1. WTOS ローカル機能強化

WTOS 7.1 では、管理機能、ローカル機能など、シンクライアントシステム管理とユーザー操作性を向上させる機能が追加されました。下記にそれぞれの機能を記します。

#### ■ インターフェイスのロケール設定機能

ファームウェアバイナリファイル(インターナショナル版)上で、管理者が言語ロケールを指定することで、ドイツ語、フランス語などの言語設定を変更することができます。これにより、エラーメッセージや WTOS ローカル UI のメッセージなどのロケールを変更することができます。

**注意:** 本機能は、日本語の対応/サポートを行っておりません。英語版利用のお客様が多言語(フランス語やドイツ語のロケールサポート)利用する場合に利用可能です。

#### 設定

1. メッセージファイル「French.Msg」とフォントファイル「French.Fnt」を入手します。
2. FTP サーバー上の WNOS フォルダ内に下記の二つのフォルダを作成します。
  - Locale
  - Font
3. 上記フォルダにそれぞれ、メッセージファイルとフォントファイルを格納します(下図)。
 

```
FTPRoot¥WNOS¥Local¥French.Msg
FTPRoot¥WNOS¥Font¥French.Fnt
```
4. 設定 INI ファイル(WNOS.INI)に、下記の設定を実施します。
 

```
Locale=French Load=yes
```
5. 次回 Wyse ThinOS 端末起動時に本設定が読み込まれ、ローカル UI の言語設定が変更されます。

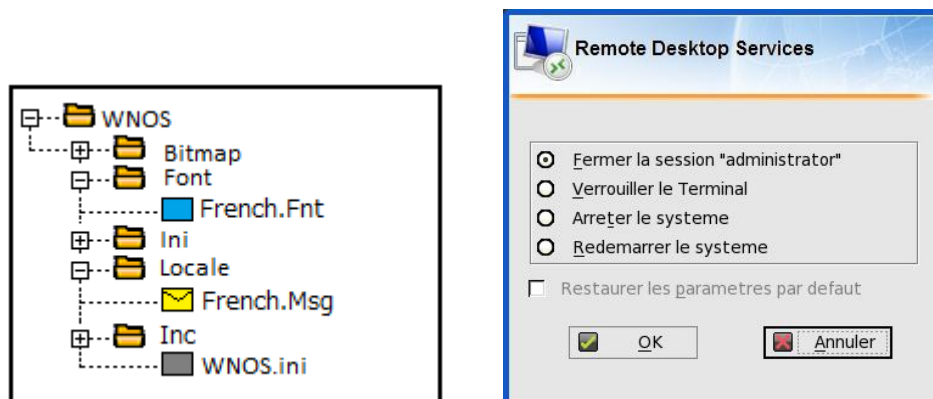


図 設定ファイル構成とUIの変更例(フランス語)

■ **ミラーファイルサーバー機能(FTP サーバー上の設定情報ローカル保存)**

FTP サーバー上で設定した WNOS.INI、画像データ(設定 INI ファイルで指定したファイル)、言語ファイル(ロケール設定機能)などの設定情報を、Wyse ThinOS 端末ローカルに保存することが可能となります。システム上の問題などで、Wyse ThinOS 端末が FTP サーバー上の設定ファイルにアクセスできない場合でも、本設定を利用することにより、Wyse ThinOS 端末に保存されている情報から端末を起動することが可能となります。

**設定**

1. 設定 INI ファイル(WNOS.INI)上に下記の設定を実施します。  
MirrorFileServer=yes
2. 次回 Wyse ThinOS 端末起動時に本設定により、Wyse ThinOS ローカルに設定情報が保存されます。

**注意事項**

- ローカル保存できる情報量は、2MB までとなります。
- INI ファイル設定を通して、必要な画像イメージなどが保存されます。
- パフォーマンスの理由より、画像データは 200KB 以上は利用しないでください。
- 下記のファイルがローカルデバイスに保存されます。

表. 保存されるデータ例

設定情報	保存されるデータ
WNOS.INI	INI ファイルのパラメータ情報
Desktop=XYZ.JPG	WNOS¥Bitmap¥XYZ.JPG
FormURL=ABC.GIF	WNOS¥FormURL¥ABC.GIF
Locale=French Load=yes	WNOS¥Locale¥French.Msg WNOS¥font¥French.Fnt

■ **USB 周辺機器のローカル制御機能**

オーディオ、ビデオ、プリンタのデバイスは、デフォルトで USB リダイレクト機能を利用しない設定になっています(HDX/TCX などの USB リダイレクション機能)。「接続設定全般」ダイアログの設定から、USB リダイレクションに対する除外設定を実施することができます。

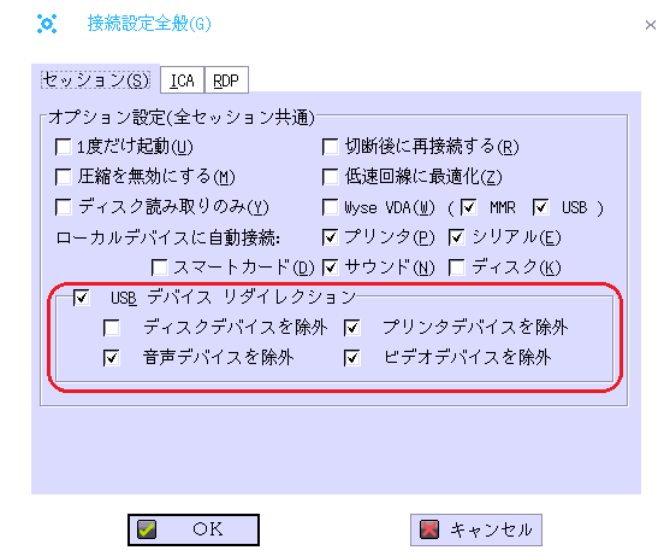


図 USB リダイレクション除外機能

注意: Web カメラに関しては、サーバー側設定で、Citrix HDX RealTime Webcam Compression がサポートされている場合、USB リダイレクションではなく、ローカル Webcam 機能により、再生を実施します。また、Wyse ThinOS 7.1 より、デフォルト設定で、ローカルのプリンタデバイス、音声デバイス、ビデオデバイスは、Wyse ThinOS ローカルで認識されます。旧バージョンで、Wyse TCX や Citrix HDX による USB リダイレクション機能により、これらのデバイスをホストシステムへリダイレクトしている場合は、ファームウェアアップデート時にデフォルト設定が変更となるため、注意が必要となります(上図参照)。

## ■ オーディオ設定

「周辺機器」設定の「音声」タブ設定において、音声出力/入力のコントロールパネルを追加しました。Wyse ThinOS 上で認識される Generic Audio Device(USB ヘッドセット等)は、本ダイアログのプルダウンメニューにデバイスとしてリストされます。「HD Audio」は、アナログオーディオデバイスを意味します。更に、「Boost」オプションが追加されました。

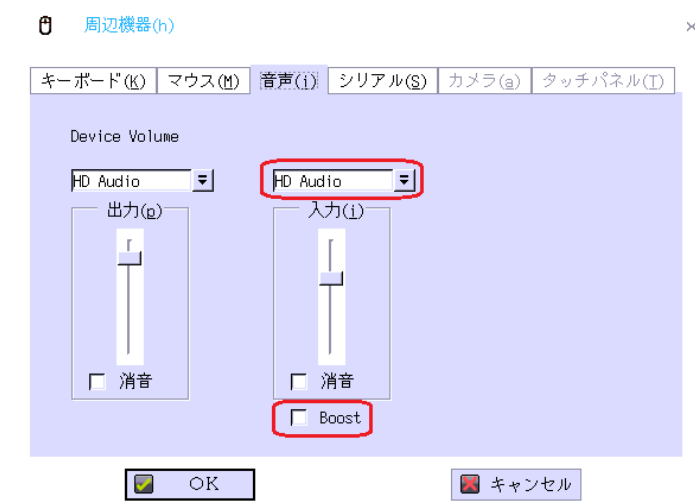


図 オーディオ設定

## ■ USB デバイスブラウザ

Wyse ThinOS 上で認識されている USB デバイスを表示する機能が追加されました。「システム情報」の「デバイス」タブにある、「デバイス参照」ボタンをクリックすると、USB デバイスビューアが表示されます。この画面で、ローカルで認識される USB デバイスの ID(PID や VID など)を確認することができます。TCX USB Virtualizer などで、利用するための USB の各種 ID 情報を入力することが可能となります。



図 デバイス参照

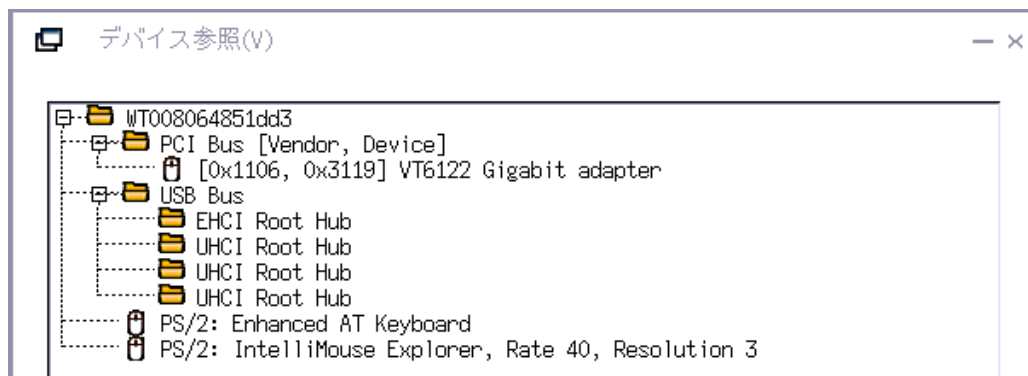


図 USB デバイスブラウザによる USB デバイス確認

## ■ ドメイン非表示セキュリティオプション

EAP-MSCHAPV2 の設定において、「ドメイン非表示」のチェック項目が追加されました。これにより、ユーザー名/パスワードフィールドは有効ですが、ドメインフィールドは、グレーアウトし、入力不可となります。

### 設定

1. 「ネットワーク設定」→「認証」タブを選択します。
2. EAP 選択において、「EAP-PEAP」を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。

3. 認証設定ダイアログが出力されるので、「EAP 選択」で、「EAP-MSCHAPV2」を選択します。
4. 「ドメイン非表示」のチェックボックスをオンにすることで、ドメインフィールドがグレイアウトします(下図)。

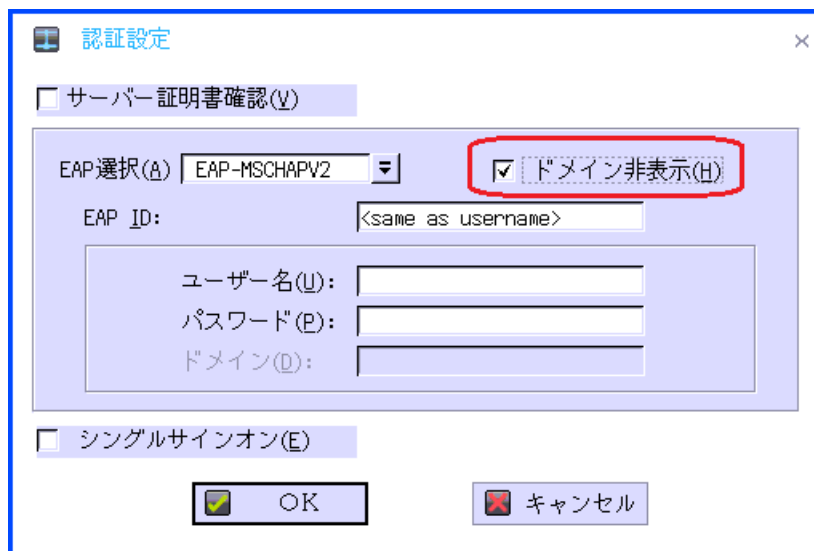


図 ドメイン非表示設定

#### ■ Cクラスのコーデック機能変更

Cクラスのハードウェアコーデックを利用可能となります。Cクラス上のハードウェアコーデック利用により、マルチメディアリダイレクション機能利用時に、ローカル CPU ではなく、ローカルハードウェアコーデックを利用して動画を再生することが可能となります。

Divx3、MSMPEG4V2、MSMPEG4V3 ビデオコーデックのローカルサポートを停止します。H.264、WMV3、WMVAはサポートされます。また、ACCオーディオデコーダーが追加されました。これにより、3つのオーディオデコーダーが利用可能となります(MP3、WMA、AAC)。

#### ■ 証明書ブラウザ

Wyse ThinOSのローカルUIに証明書ビューアを搭載しました。証明書ブラウザを利用することにより、Wyse ThinOS上にインストールされている証明書の内容や、証明書チェーンなどの詳細情報をGUIで参照することが可能となります。

#### 設定

1. 「システム設定」→「ネットワーク設定」を選択します。
2. [ネットワーク設定]ダイアログの「認証」タブを選択します。

3. 下方にある、「証明書管理」ボタンをクリックします(下図参照)。

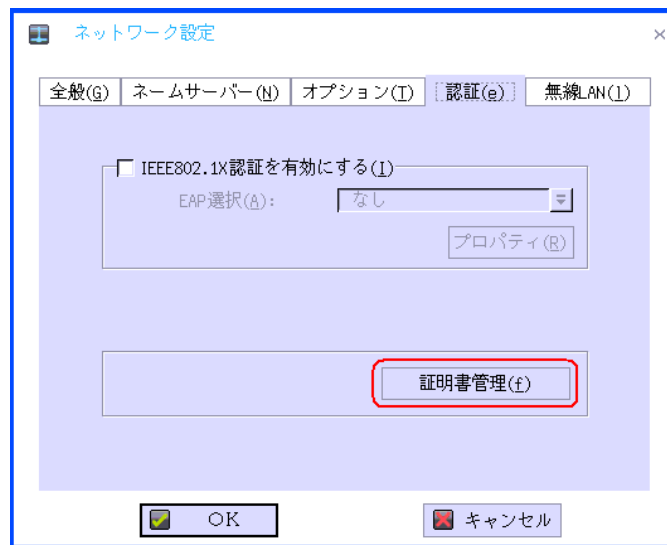


図 証明書管理

4. 証明書ブラウザダイアログが出力されます。
5. 必要な証明書をハイライトし、「証明書参照」ボタンをクリックします。

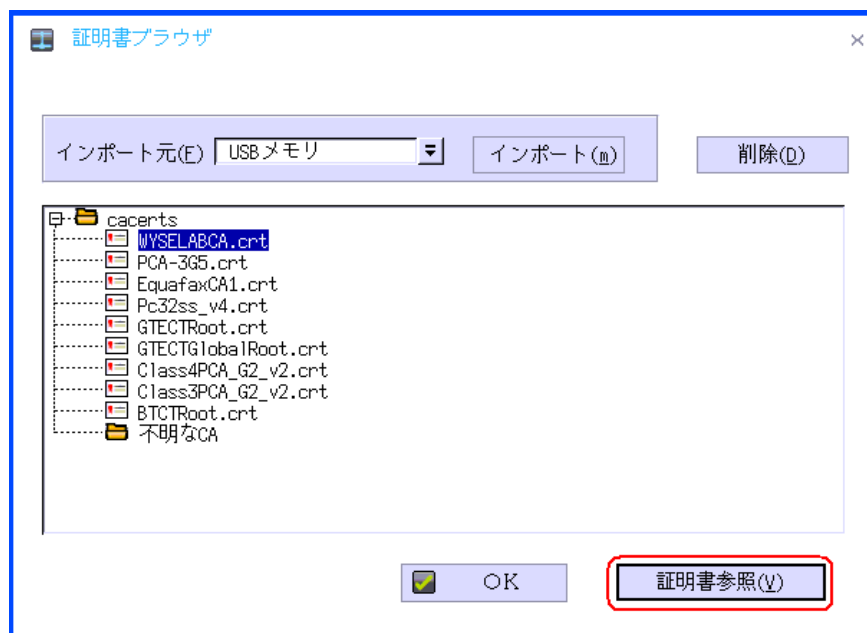


図 証明書ブラウザ

6. 選択した証明書の詳細情報を参照することができます。

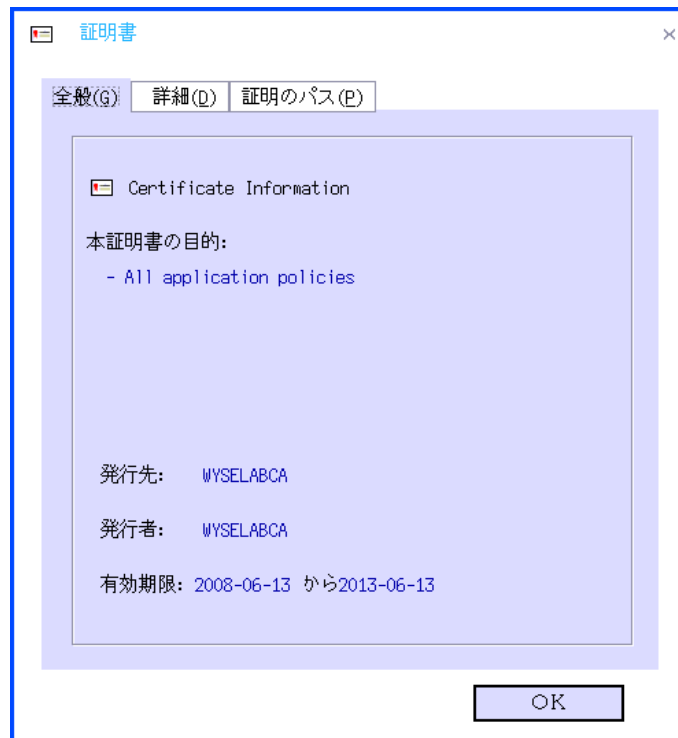


図 証明書の詳細情報

## ■ 無線機能の変更点

C10LE における無線モジュール(現行のシングルアンテナ)では、Wyse ThinOS 7.1 バージョンより、802.11n 機能が無効化されます。現行のシングルアンテナ無線モジュールでは、2.4GHz のみの通信が可能でしたが、Wyse ThinOS7.0 以前のバージョンにおいて、802.11n の通信速度が最大 54Mbps であることと、特定の無線 AP において、安定的な無線通信ができない場合があります。無線 AP 機器では、802.11g で現行と同じ 54Mbps 通信を確立できるため、Wyse ThinOS 7.1 では、802.11 b/g のみをサポート大正とします。

MSCHAPv2 の選択画面において、ユーザーは、MSCHAPv2 認証前の最初の認証レベルとして、「EAP ID」を選択することが可能となります。「シングルサインオン」にチェックが入っている場合、MSCHAPv2 の認証情報を利用して、Wyse ThinOS ローカルデスクトップにログオンします。ローカルシステム内では、設定 INI パラメータの \$UN、\$PW、\$DN を確立して、RDP/ICA セッションにログオンを試みます。

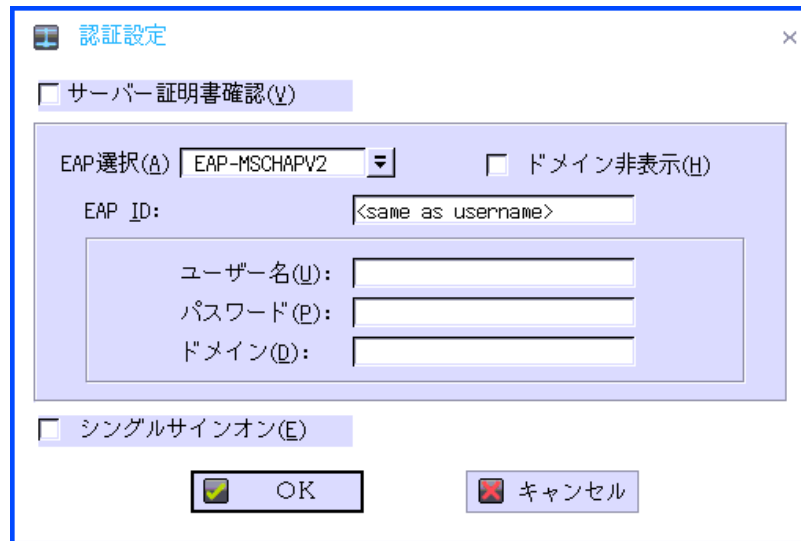


図 MSCHAPv2 の認証設定画面

## 2. Citrix 機能

### ■ ICA RTP Audio 機能

ICA RTP Audio 機能は、ICA セッション利用時、音声通信データを UDP ベースで送信することで、リアルタイム音声通信をより最適化します。Citrix HDX マルチメディアリダイレクション(RAVE 機能を利用したマルチメディア機能)で利用されるオーディオデータを除き、リアルタイム音声通信を RTP ベースの異なるセッションで送信することが可能となります。VoIP アプリケーションのような音声通信システムには最適となります。

#### 注意

- ✓ XenDesktop 5 FP1 以降のサーバーシステムが必要となります。詳細なサーバー設定に関しては、Citrix 社の設定ドキュメントを参照ください。
- ✓ XenDesktop 上の設定で、UDPリアルタイムトランスポートのオーディオポリシーを有効化する必要があります。
- ✓ オーディオ品質がミディアムの場合に、RTP が有効となります。
- ✓ デスクトップセッションの暗号化レベルは、基本もしくは、128 ビット(ログオンのみ)である必要があります。
- ✓ UDP 通信の一般的なネットワーク設計には注意が必要となります。Access Gateway など、Wyse ThinOS (TCP ベースの SSL-VPN は、サポート外)では対応していません。

## ■ ディスクマッピングオプションの追加

「接続設定全般」ダイアログの「ICA」タブ上に、全てのディスクマップを指定するドライブレターのプルダウンメニューを追加しました(下図参照)。ICA 機能のディスクマッピング機能において、セッションのマッピングされるドライブレターを指定することができる様になりました。

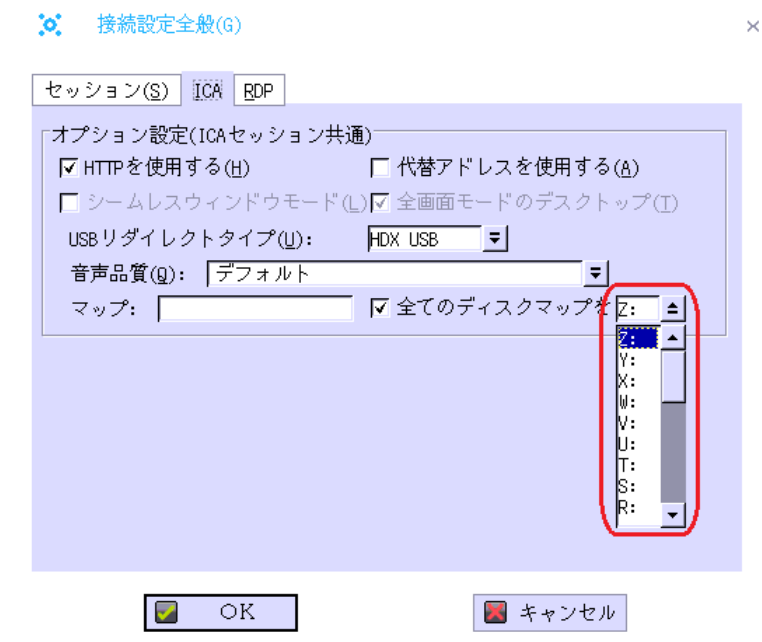


図 ディスクマッピングオプション

## ■ ICA プロトコルベース バージョン 12

Wyse ThinOS に搭載されている ICA プロトコルバージョンのベースが ICA バージョン 12 へアップグレードされました。

## ■ カメラ搭載のマイクrophonサポート

USB Web カメラに内蔵されているマイクrophonを、Wyse ThinOS 上のローカルオーディオデバイスとして認識します。ユーザーは、Citrix HDX WebCam サポート機能を利用する際に、USB Webカメラに内蔵されているマイクrophonを Wyse ThinOS 上のローカルオーディオデバイスとして利用することができます。

**注意:** Wyse ThinOS では、Webカメラ内蔵の音声デバイス(マイクrophon)をローカルで認識させる基盤機能を追加しております。全てのシステム環境で動作することを保証するものではありません。ただし、ICA セッション内などで、Webカメラビデオデータキャプチャリングなどを利用している場合、音声/ビデオ通信の混生も発生します。その他各種環境/設定により想定機能をなさない場合があります。必ず、運用前でのシステム環境における動作各種サードベンダーアプリケーション、ハードウェアデバイスとの互換性テストや動作確認の実施を行う必要があります。

### 3. RDP 機能

注意: RDP7 や Remote FX 機能を利用する場合、ホストシステムが RDP7/Remote FX 機能に対応している必要があります。各種ホスト/サーバー機能の詳細や要求仕様に関しては、Microsoft 社ドキュメントを参照ください。

#### ■ RemoteFX サポート (R10L のみ)

RemoteFX をサポートするホストデスクトップに対して、Wyse R10L で RemoteFX グラフィックパフォーマンスが向上します。特定の 3D グラフィック、OpenGL、高解像度動画などが RemoteFX 機能によりスムーズに動作します。

#### サポートされる解像度

- ✓ 1680x1050
- ✓ 1600x1400
- ✓ 1920x1080
- ✓ 1440x900
- ✓ 1400x1050
- ✓ 1280x1024
- ✓ 1280x768
- ✓ 1280x720
- ✓ 1368x768
- ✓ 1024x768
- ✓ 640x480

#### 下記解像度は、フルスクリーンの RemoteFX をサポートしません

- ✓ 1600x900
- ✓ 4360x768
- ✓ 1366x768
- ✓ 1280x960
- ✓ 1152x864
- ✓ 800x600

#### 注意事項

- ✓ RDP 接続は、True Color である必要があります。
- ✓ R クラスのみサポートされます。
- ✓ RemoteFX 上では、マルチモニタ上でタスクバーの拡張表示がサポートされません。

#### ■ RemoteFX USB リダイレクション

RemoteFX USB リダイレクションをサポートするホスト仮想デスクトップ(Windows 7 SP1 など)に対して、Wyse ThinOS では、USB デバイスのリダイレクション機能が利用できます。下記表に、各デバイス種類によって、利用されるデバイス認識の方法を示します。

注意: 利用可能なデバイスのタイプの詳細情報は、Microsoft 社情報をご参照ください。下記表に示すデバイス全てが利用できるものではありません。また、デバイスのリダイレクト機能(基板機能)を提供します。システム環境、ポリシー、ネットワーク設定等のシステムインテグレーションに依存します。利用前には十分な検証とシステムに有った設計を実施する必要があります。

表. USB デバイスの種類と利用形体

デバイス	ホストシステムでの検知方法
複合プリンタ	RemoteFX USB リダイレクション
プリンタ	プリンタマッピング
USB カメラ	RemoteFX USB リダイレクション
USB Headset	RemoteFX USB リダイレクション、もしくは、ローカル再生
Palm PDA デバイス	RemoteFX USB redirection
オーディオデバイス (コンポジットデバイスではないもの)	音声リダイレクション(RDP 音声通信)
CD or DVD ドライバ	マッピング
USB メモリデバイス	マッピング
Smart Card Reader	スマートカードリダイレクション
USB キーボード/マウス	HID 入出力デバイスの認識

**注意事項:**

- ✓ “USB device XXXXX opened for redirection”の様なシステムログが Wyse ThinOS 上に記録された場合、USB デバイスは、RemoteFX USB リダイレクション機能で、リダイレクトされています。
- ✓ USB の制限により、RemoteFX 機能でリダイレクトされた USB は、一つの RDP セッションのみでしか利用できません。USB が仮想システム上へリダイレクトされている際は、他のセッションやローカルでの利用はできません。
- ✓ リダイレクトされた USB のドライバは、ホストシステム上にインストールされている必要があります。

■ **RemoteApp (Microsoft Broker 機能)**

Microsoft Windows Server 2008 R2 の RemoteApp 機能を利用することが可能となりました。ブローカーサーバーを指定することで、コネクションマネージャより、リモートアプリケーションや、デスクトップを起動することが可能となります。ブローカーサーバーの指定方法は、下記の選択が可能となります。

- ✓ http://<ip アドレス>
- ✓ https://<IP アドレス>
- ✓ <IP アドレス>
- ✓ http://<ブローカーの FQDN>
- ✓ https://<ブローカーの FQDN>
- ✓ <ブローカーの FQDN>

**設定:**

1. Wyse ThinOS より、「システム設定」→「リモート接続」を選択します。
2. 「リモート接続」ダイアログの[ブローカー設定]タブを選択します。

3. 「ブローカー選択」において、Microsoft をチェックし、ブローカーサーバーに適切なサーバー情報(URL や IP アドレスなど)を設定します。

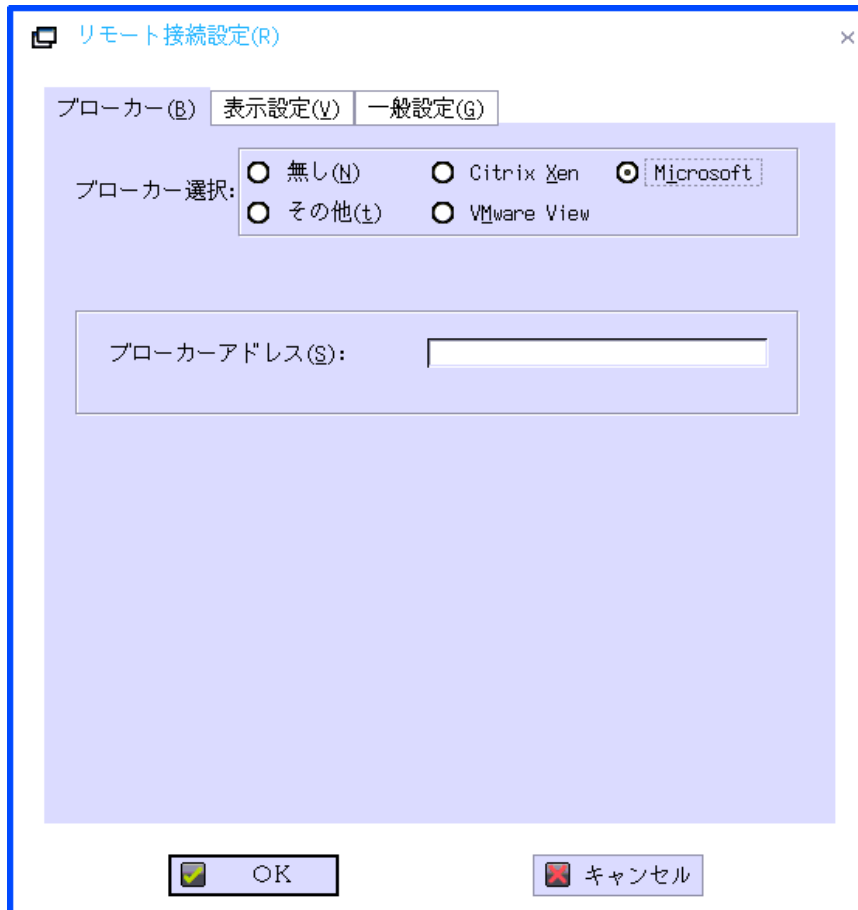


図 Microsoft ブローカーサーバーの設定

**注意事項:**

- ✓ デフォルトのサーバー設定(IP や FQDN 指定)では、HTTPS コネクションに自動的に変換されます。HTTPS 接続を実施するためには、Wyse ThinOS 上に適切な証明書をインストールする必要があります。
- ✓ Microsoft 社の RemoteApp 環境(Remote Desktop Session Host サーバー、Remote Desktop Connection Broker、Remote Desktop Web Access)を構築する必要があります。構築の詳細は、Microsoft 社の情報をご参照ください。
- ✓ シームレスモードは、Wyse ThinOS のクラシックデスクトップモードのみで利用可能です。

## 新規に追加/変更された設定 INI ファイルパラメータ

本リリースにおける追加/変更された設定 INI ファイルパラメータに関して、下記表に示します。

表. WTOS 7.1 Build 033 で追加/変更された INI ファイル設定パラメータ(追加分を赤字で表記)

パラメータ	説明																		
Locale={English   us   French   fr   German   de   ...} load={ yes   no } LocaleList={English   us, French   fr, German   de, ...}	<p>注意: 本機能の日本語(Japanese)は、サポートされておりません。</p> <p>Locale の設定により、Wyse ThinOS のシステム言語(ロケール)を変更することが可能となります。</p> <p><b>Load:</b>            Yes: 言語/フォントファイルを FTP 上からダウンロードします。            wnos/local 上のメッセージファイル(.msg)、wnos/font 上のフォントファイル(.fnt)をロードします。            No: 言語/フォントファイルをロードしません。</p> <p><b>LocaleList:</b>            ロケールのリストを作成し、Wyse ThinOS のローカルデスクトップ上から、選択可能となります。</p> <p>下記に言語のマッピングテーブルを示します。</p> <table> <tr> <td>Alias</td> <td>Language name</td> </tr> <tr> <td>us</td> <td>English</td> </tr> <tr> <td>fr</td> <td>French</td> </tr> <tr> <td>de</td> <td>German</td> </tr> <tr> <td>gb</td> <td>Chinese Simplified</td> </tr> <tr> <td>b5</td> <td>Chinese Traditional</td> </tr> <tr> <td>jp</td> <td>Japanese</td> </tr> <tr> <td>ko</td> <td>Korean</td> </tr> <tr> <td>la</td> <td>Latin</td> </tr> </table>	Alias	Language name	us	English	fr	French	de	German	gb	Chinese Simplified	b5	Chinese Traditional	jp	Japanese	ko	Korean	la	Latin
Alias	Language name																		
us	English																		
fr	French																		
de	German																		
gb	Chinese Simplified																		
b5	Chinese Traditional																		
jp	Japanese																		
ko	Korean																		
la	Latin																		

<p>Device=camera</p> <p>[format=raw]</p> <p>[width={カメラ解像度幅}]</p> <p>[height={カメラ解像度高さ}]</p> <p>[fps={カメラの FPS}]</p> <p>[optimize={yes, no}]</p>	<p>Device=camera の設定により、Wyse ThinOS ローカル上で認識されるカメラの設定を実施できます。</p> <p><b>Format:</b> Raw: ビデオフォーマットタイプは、本設定のみが現在選択可能です。</p> <p><b>Width:</b> ローカルカメラで利用する解像度の幅を指定します。</p> <p><b>Height:</b> ローカルカメラで利用する解像度の幅を指定します。</p> <p><b>FPS:</b> ローカルカメラで利用する FPS(Frame Per Second)の設定</p> <p><b>Optimize:</b> Yes: 320x240@10fps に最適化されます。width, height, FPS の設定値に関わらず本設定が有効となります。</p> <p>No(デフォルト): 最適化設定されません。Width, height, FPS の設定値がローカルカメラの設定値として有効となります。</p>
<p>ConnectionBroker={default, VMware, Microsoft}</p>	<p><b>ConnectionBroker:</b> コネクションブローカーの種別を設定します。</p> <p>VMWare: VMWare Viewコネクションサーバーをブローカーサーバーの種別として選択します。</p> <p>Microsoft: Microsoftブローカーをブローカーサーバーの種別として選択します。</p> <p>注意: 旧バージョンでのVMWare Viewコネクションサーバーの設定は、「VDM」でした。本バージョンでも「VDM」文字列を従来通りサポートします。但し、本バージョン以降での設定においては、「VMWare」の指定を推奨します。</p>
<p>EnableCacheIni={yes, no}</p> <p>MirrorFileServer={yes, no}</p>	<p><b>MirrorFileServer:</b> ミラーファイルサーバーの設定を有効にします。</p> <p>Yes: ミラーファイルサーバー機能が有効となります。全てのファイル(設定INIファイル、ビットマップ情報、フォント、ロケール情報など)がローカルの端末のローカルFlash ROM上に保存されます(S10以外)。FTPサーバーにアクセスできない場合、本機能により、Wyse ThinOSの設定がリストアされます。</p>

<p>SysMode={classic, vdi}          [toolbarisablemouse={yes, <b>no</b>}] [toobarclick={yes, <b>no</b>}]          [toolbardelay={0-4}]          [toolbar_no_conmgr={yes, <b>no</b>}]          [toolbarisablehotkey={yes, <b>no</b>}]          [LightGray="r g b" ] [MediumGray="r g b" ] [DarkGray="r g b"]          [DisableAddConnection={yes, no}]  <b>[ToolbarEnableOneSession={yes, no}]</b></p>	<p><b>SysMode:</b>          Wyse ThinOS のローカル UI 表示モード(クラシックモード、ゼロラウンチパッド)を指定します。</p> <p><b>ToolbarEnableOneSession:</b>          デスクトップセッションを起動している最中のローカルタスクバーの動作を指定します。</p> <p>Yes: デスクトップセッションが一つだけであっても、Wyse ThinOS のローカルタスクバーを有効にします。</p> <p>No: デスクトップセッションが一つの場合、ローカルタスクバーを無効にします。</p>
<p>DESKTOP=ビットマップファイル          [Layout={tile, center, <b>stretch</b>}]  <b>[IconTextColor="rrr ggg bbb"]</b></p>	<p><b>IconTextColor:</b>          Wyse ThinOS ローカルデスクトップ(クラシックモード)上に表示される RDP/ICA アイコンの表示文字色を指定します。RGB 指定で、0~255 までの数字を指定することができます。</p>

<p>[peapeap={EAP-MSCHAPV2, EAP-GTC}]</p> <p><b>[peapidentity={PEAPのID}]</b></p> <p>[peapmschapun={username for EAP-PEAP/EAP-MSCHAPV2}]</p> <p>[peapmschappwd={password for EAP-PEAP/EAP-MSCHAPV2}]</p> <p>[peapmschappwdEnc={password encrypted for EAP-PEAP/EAP-MSCHAPV2}]</p> <p>[peapmschapdm={domain for EAP-PEAP/EAP-MSCHAPV2}]</p> <p><b>[peapsinglesignon={yes, no}]</b></p> <p>[peapgtcun={username for EAP-PEAP/EAP-GTC}]</p> <p>[peapgtcpwd={password for EAP-PEAP/EAP-GTC}]</p> <p>[wpapskpwd={passphrase for WPA-PSK}]</p> <p>[wpapskpwdEnc={passphrase encrypted for WPA-PSK}]</p> <p>[wpa2pskpwd={passphrase for WPA2-PSK}]</p> <p>[wpa2pskpwdEnc={passphrase encrypted for WPA2-PSK}]</p> <p>[encryption={TKIP CCMP}]</p>	<p><b>Peapidentity:</b> 「ネットワーク設定」→「認証」の認証設定ダイアログにおける、「EAP ID」の登録情報を設定します。</p> <p><b>peapSingleSignon:</b> Yes: 「ネットワーク設定」→「認証」の PEAP 設定時のシングルサインオンを有効にします。 No(デフォルト): PEAP 設定時のシングルサインオンを無効にします。</p>
--	---

## **Version 7.1 Build 033における修正内容:**

本リリースにおける修正内容を下記に示します。

1. XenApp6 環境において、USB データ転送が遅くなる場合があります。(CIR55978)
2. R10L 端末利用時、特定の Web サイトにおいて、文字列が表示されづらくなる場合があります。(CIR59593)
3. Windows 2008 R2 ドメインコントローラにおいて、NTLM 認証が失敗する場合があります。(CIR59803)
4. ICA セッション画面の保持機能利用時に、プリントジョブデータが長くなる場合があります。(CIR59648)
5. NetMeeting アプリケーションを利用した際に、CPU 使用率が非常に高くなる場合があります。(CIR59604)
6. Cisco ACS5.0 において、WPA2-Enterprise 認証による接続ができませんでした。(CIR55792)
7. XenApp6 上で、USB ドライブマッピングが、フロッピードライブに見えていました。(CIR55919)
8. VMWare View 環境で、再起動ボタンがグレイアウトすることがありました。(CIR56170)
9. 無線ローミングを実施した際に、Wyse ThinOS の Trap エラーが発生することがありました。(CIR55837)
10. WDM の再起動、WOL 等のコマンドが動作しない場合があります。(CIR54631)
11. Wyse TCX USB 機能で、GemPC のスマートカードがアクセスできない場合があります。(CIR56120)
12. デバイスロックごとに、サインオフを実施した際に、キーボードがロックされてしまう場合があります。(CIR56376)
13. ICA セッション画面の保持機能利用時に、再接続機能が正常に動作しない場合があります。(CIR53994)
14. 同じデスクトップセッション名が二つある場合、二番目のデスクトップが起動しませんでした。(CIR57091)
15. 設定 INI ファイルを HTTP 経由で利用時、CacheIni 利用時、エラー「Cache ini read error: Bad file number」が出力されました。(CIR57096)
16. RDP セッション内で、スマートカードが認識されない場合があります。(CIR54629)
17. R10L で、Autopower=yes が利用できませんでした。(CIR56261)
18. 複数の PNAgent サイトをホスト名で指定した場合、ログオンに長い時間がかかりました。(CIR57189)
19. 特定の ASF 音声ファイルを再生した際に、音声出力されない場合があります。(CIR56869)
20. RDP セッション利用時に Trap Error が発生する場合があります。(CIR57329)

21. 複数セッションを起動して利用している場合、Trap Error が発生する場合があります。(CIR57475)
22. 内部パケットバッファリング処理の不正により、無線ネットワーク利用時、パフォーマンスが出ない場合があります。(CIR54541)
23. DHCP オプションタグ 43 が誤って処理されていました。(CIR56672)
24. WTOS 連続稼働時に、ハングする場合があります。(TIR56826)
25. 端末の BIOS/CMOS 設定等が破損する場合があります。(CIR60992)

### **対応システム環境:**

Wyse 社では、下記のオペレーティングシステム、ホストシステム環境において、WTOS 7.1 Build 033 の基本試験を完了しております。

#### **オペレーティングシステム**

- Windows XP Professional SP3
- Windows 7
- Windows Server 2003 SP2
- Windows Server 2008 SP1
- Windows Server 2008 R2

#### **ホストシステム環境**

- Citrix XenApp 5.0/6.0
- Citrix XenDesktop 5.0/5.0 FP1
- VMWare View 4.5/4.6
- Windows Server 2003/2008 ターミナルサービス/リモートデスクトップサービス
- その他リモートデスクトップ接続(RDP)を基盤とするシステム Windows XP, Windows 7

注意: お客様運用/設定環境において、利用するアプリケーション、ネットワーク、ホストシステム等のサードベンダー製品の組み合わせ、製品制限等により、動作しない機能が存在する場合があります。Wyse ThinOS、ホストシステムを含めて、運用時に利用する各種機能においては、必ず運用環境を想定した十分な検証が必要となります。Wyse ThinOS が上記システムの全ての機能を保証するものではないため、運用前の十分な検証を実施していただき、ハードウェア/ソフトウェアにおけるお客様要件を満たしていることを確認してください。

## 画面解像度

各ハードウェア端末(クラス)は、下記表に示す画面解像度に対応しています。

表. 対応画面解像度

	C クラス	V クラス	R クラス	S クラス
640x840	✓	✓	✓	✓
800x600	✓	✓	✓	✓
852x480	✗	✗	✗	✓
1024x768	✓	✓	✓	✓
1152x864	✓	✓	✓	✗
1280x720	✓	✓	✓	✗
1280x768	✓	✓	✓	✗
1280x1024	✓	✓	✓	✓
1360x768	✓	✓	✓	✓
1366x768	✓	✓	✓	✓
1368x768	✓	✓	✓	✗
1400x1050	✓	✓	✓	✓
1440x900	✓	✓	✓	✓
1600x900	✓	✓	✓	✓
1600x1200	✓	✓	✓	✓
1680x1050	✓	✓	✓	✓
1920x1080	✓	✓	✓	✗
1920x1200	✓	✓	✓	✗
1920x1440	✗	✗	✓	✗
2560x1600	✗	✗	✓	✗

## Wyse VDA サポートに関して

Wyse VDA (Virtual Desktop Accelerator)の利用 UDP ポート番号に関して、Windows 版 VDA クライアントとは動作が若干異なります。Windows 版 VDA クライアントでの VDA 利用時には、デフォルトで 4000 番ポートから順番にポート数が減ります(4000, 3999, 3998...)。Wyse ThinOS では、この逆でポート番号が増えます。下記設定の様にすると、VDA で利用する UDP ポート番号は、3000 から 3010 にインクリメント(増加)していきます。

設定例:

SessionConfig=All WyseVDA\_portRange=3000,3010

Wyse ThinOS の VDA サポートバージョン: バージョン 1.1

**注意: VDA バージョン 1.5, 2.0 は、Wyse ThinOS では現在サポートされておりません。**

## ファームウェア(ビルド)の詳細:

### ビルド(S10)の詳細

下記表に、それぞれファームウェアデータの情報、BIOS 詳細情報、ハードウェアスペックの情報を記載します。

表. S10 ファームウェアバイナリデータの詳細情報

<b>Platform(s)</b>	S10
<b>Version</b>	7.1
<b>Build number</b>	033
<b>Build File Name</b>	RCA_wnos.jp
<b>Size(Bytes)</b>	2,376,064
<b>MD5 Checksum</b>	FEB18D5853EAF7EA593F4279723F9BC
<b>Localization</b>	Japanese

表. BIOS 詳細情報

<b>Platform(s)</b>	S10
<b>Version</b>	1.16
<b>Build File Name</b>	Xpress.rom
<b>Size(Bytes)</b>	262,144
<b>MD5 Check sum</b>	31D2C9317FD76660841A1618D70E88A7
<b>Checksum32</b>	16C0FD3

表. 対応ハードウェアスペック (非 RoHS プラットフォーム)

<b>System version</b>	7.1.033
<b>CPU</b>	AMD Geode GX 466
<b>ROM (NOR)サイズ</b>	256KB
<b>ROM (NAND) サイズ</b>	32MB
<b>RAM サイズ</b>	64MB/128MB

表. 対応ハードウェアスペック (RoHS 版)

<b>System version</b>	7.1.033
<b>CPU</b>	AMD Geode GX 500
<b>ROM (NOR)サイズ</b>	2MB
<b>ROM (NAND) サイズ</b>	0MB
<b>RAM サイズ</b>	128MB

注意: 現在出荷の Wyse S10 は、全て RoHS 版となります。非 RoHS 版の製品は、2007 年 5 月 18 日に販売が終了しております。

### ビルド(C10LE)の詳細

下記表に、それぞれファームウェアデータの情報、BIOS 詳細情報、ハードウェアスペックの情報を記載します。

表. C10LE ファームウェアバイナリデータの詳細情報

<b>Platform(s)</b>	C10LE
<b>Version</b>	7.1
<b>Build number</b>	033
<b>Build File Name</b>	C10_wnos.jp
<b>Size(Bytes)</b>	4,923,968
<b>MD5 Checksum</b>	DD57F0E6C8A8D4281084950A8821E5D7
<b>Localization</b>	Japanese

表. BIOS 詳細情報

<b>Platform(s)</b>	C10LE
<b>Version</b>	1.0B
<b>Build File Name</b>	DEVEL35M.ROM
<b>Size(Bytes)</b>	1,048,576
<b>MD5 Check sum</b>	07BA2F7594898FACCB26EDEBBE5387CE
<b>Checksum32</b>	A4678A3

表. 対応ハードウェアスペック

<b>System version</b>	7.1.033
<b>CPU</b>	VIA 1GHz
<b>ROM (NOR)サイズ</b>	1MB
<b>ROM (NAND) サイズ</b>	128MB
<b>RAM サイズ</b>	512MB

### ビルド(V10L, V10LE, V10L Dual Video)の詳細

下記表に、それぞれファームウェアデータの情報、BIOS 詳細情報、ハードウェアスペックの情報を記載します。

表. V10L ファームウェアバイナリデータの詳細情報

<b>Platform(s)</b>	V10L, V10L Dual DVI, V10LE
<b>Version</b>	7.1
<b>Build number</b>	033

<b>Build File Name</b>	VL10_wnos.jp
<b>Size(Bytes)</b>	4,641,240
<b>MD5 Checksum</b>	0063865E61FD1353E7500D6DAA7BC52C
<b>Localization</b>	Japanese
<b>備考</b>	V10L、V10LDual DVI、V10LE プラットフォームに対応しています。

表. BIOS 詳細情報

<b>Platform(s)</b>	V10L, V10L Dual DVI, V10LE
<b>Version</b>	1.19
<b>Build File Name</b>	60480119.bin
<b>Size(Bytes)</b>	524,288
<b>MD5 Check sum</b>	542143D791505EC406F727221C425F10
<b>Checksum32</b>	4E42900

表. 対応ハードウェアスペック (V10L)

<b>System version</b>	7.0.113
<b>CPU</b>	VIA Eden/Esther 800MHz (V10L)
<b>ROM (NOR)サイズ</b>	512KB
<b>ROM (NAND) サイズ</b>	128MB
<b>RAM サイズ</b>	128/256MB/512MB

注意: 現在出荷の Wyse V10L は、全て RoHS 版(Eden)となります。また、2008 年 10 月以降製造の V10L の RAM サイズは、256MB となります。2009 年 12 月移行製造の V10L の RAM サイズは、512MB となります。また、V10L は、販売を終了しています(2010 年 4 月)。

表. 対応ハードウェアスペック (V10L Dual DVI プラットフォーム)

<b>System version</b>	7.1.033
<b>CPU</b>	VIA Eden 800MHz
<b>ROM (NOR)サイズ</b>	512KB
<b>ROM (NAND) サイズ</b>	128MB
<b>RAM サイズ</b>	256MB

注意: Wyse V10L Dual DVI (DVI 端子を二つ標準搭載するモデル)は、販売を終了しています(2010 年 12 月)。

表. 対応ハードウェアスペック (V10LE プラットフォーム)

<b>System version</b>	7.1.033
<b>CPU</b>	VIA Eden 1.2GHz
<b>ROM (NOR)サイズ</b>	512KB
<b>ROM (NAND) サイズ</b>	128MB
<b>RAM サイズ</b>	512MB

## ビルド(R10)の詳細

下表にファームウェアデータの情報、BIOS 詳細情報、ハードウェアスペックの情報を記載します。

表. R10 ファームウェアバイナリデータの詳細情報

<b>Platform(s)</b>	R10
<b>Version</b>	7.1
<b>Build number</b>	033
<b>Build File Name</b>	R10_wnos.jp
<b>Size(Bytes)</b>	4,742,948
<b>MD5 Checksum</b>	81EE27A6AAF7B77713BE1A442A9134F3
<b>Localization</b>	Japanese
<b>備考</b>	R10 プラットフォームに対応しています。

表. BIOS 詳細情報

<b>Platform(s)</b>	R10
<b>Version</b>	1.0H_SPC
<b>Build File Name</b>	FLASHABL.ROM
<b>Size(Bytes)</b>	1,070,066
<b>MD5 Check sum</b>	08154CED6D7799E2D1E6259CBAD71979
<b>Checksum32</b>	95309FC

表. 対応ハードウェアスペック

<b>System version</b>	7.1.033
<b>CPU</b>	AMD 1.5GHz
<b>ROM (NOR)サイズ</b>	1MB
<b>ROM (NAND) サイズ</b>	128MB
<b>RAM サイズ</b>	1GB

## ファームウェアアップデートについて:

### FTP アップデート

FTP サーバーからのアップデート用バイナリデータ。FTP サーバーを通して、Wyse シンクライアント 端末起動時に、ファームウェアイメージをアップロードするためのファイルです。

S10 用ファームウェアファイル:RCA\_wnos.jp

C10LE 用ファームウェアファイル:C10\_wnos.jp

V10L/V10L Dual DVI/V10LE 用ファームウェアファイル: VL10\_wnos.jp

R10 用ファームウェア: R10\_wnos.jp

### WDM (Wyse Device Manager)

本ファームウェア(ビルド)は、下記の WDM 製品(バージョン)に対応しています。

Wyse Device Manager 4.7.0 Build 541 以降

### WSI (Wyse Simple Imager)

本ファームウェア(ビルド)は、WSI 製品ではご利用いただけません。

### 周辺機器とその他ハードウェア対応:

#### Wyse 社検証済みハードウェア

下記に Wyse 社でテストされた周辺機器とハードウェアのリストを示します。

注意: 下記リストに表示されているハードウェアは、本バージョンのリリースに当たり、SQA プロセス上テストされたものとなります。この他一般的な周辺機器に関しては、下記サイトを参照ください。下記に示すハードウェアデバイスに関しては、Wyse 社でのテスト環境にける基本テスト結果を示しており、各ハードウェアの全ての機能を保証するものではありません。運用環境においては、利用するアプリケーション、ネットワーク、ホストシステム、各種設定等の理由により期待される効果が出ない場合があります。Wyse ThinOS で利用する周辺機器に関しては、必ず運用環境を想定した十分な検証を行う必要があります。システム/パフォーマンス要件に応じて、各種環境におけるシステム設定変更やワークアラウンドなどを適用ください。

#### Wyse Certified Peripherals

<http://www.wyse.com/products/hardware/peripherals/index.asp>

表. Wyse 社テスト結果

周辺機器	モデル (P/N)	テスト結果
<b>USB メモリー</b>		
SanDisk Cruzer Micro (1 GB)	SDCZ6-1024-A10	Pass
Kingston DataTraveler (2 GB)		Pass
Lenovo 4 GB		Pass
SanDisk Curzer Micro USB 2.0 Flash Drive 2G		Pass
SanDisk Curzer Micro USB 2.0 Flash Drive 1G		Pass
<b>USB ハブ</b>		
I ball USB hub	012982172	Pass
<b>HD ドライブ</b>		
Pioneer external DVD-ROM		Pass
YDstar external DVD-ROM		Pass
BENQ external DVD-ROM		Pass
Maxtor Basics External Portable Hard Drive 250G		Pass

<b>USB ヘッドフォン</b>		
Microsoft LifeChat LX-300 USB earphone		<b>Pass</b>
Logitech USB Handsets		<b>Pass</b>
Logitech USB Wireless Handsets	PN 881-000065	<b>Pass</b>
Plantronics BLACKWIRE C620		<b>Pass</b>
Plantronics BLACKWIRE C610		<b>Pass</b>
Plantronics D100 Wireless		<b>Pass</b>
Plantronics BLACKWIRE C420		<b>Pass</b>
Plantronics PLT USB Adapter 02		<b>Pass</b>
Plantronics P820		<b>Pass</b>
Plantronics P420 Speakerphone		<b>Pass</b>
Plantronics DA40		<b>Pass</b>
LG-NORTEL Deskphone IP8501		<b>Pass</b>
POLYCOM Deskphone CX200		<b>Pass</b>
SONIC EV-87		<b>Pass</b>
AONI USB-526MV		<b>Pass</b>
Logitech A-0356A		<b>Pass</b>
Logitech A-00015 G330		<b>Pass</b>
Logitech S-150		<b>Pass</b>
Plantronics DA45		<b>Pass</b>
<b>USB Webcam</b>		
Logitech USB Webcam 9000		<b>Pass</b>
Microsoft LifeCam 3.0 Cinema	P/N X821404-001	<b>Pass</b>
Logitech C310	P/N 860-000259	<b>Pass</b>
<b>アナログヘッドフォン</b>		
KBoss SB-40		<b>Pass</b>
Logitech Clearchat	PN 981-000027	<b>Pass</b>
<b>プリンタ</b>		
HP Laser Jet P2035	CE461A	<b>Pass</b>
HP Laser Jet P2055D		<b>Pass</b>
Epson LQ_20K		<b>Pass</b>
HP LaserJet 6L		<b>Pass</b>
OKIPOS® 425D Series Dual-Roll Multi-Task		<b>Pass</b>

HP Color LaserJet CM1312MFP	CC430A	Pass
Xerox Phaser 6130 (Validated as Local printer)	HAT044231E/ 100S12604	Pass
<b>無線 LAN デバイス</b>		
Linksys WAP4410N	S/N-ASK08J501497	Pass
Wyse VT6656 USB 802.12 b/g Wireless LAN Network Adapter	920300-51L	Pass
<b>モニター</b>		
ELO entuitive (Touch Screen)	ET.F16WP.B02	Pass
SAMSUNG SyncMaster T220+		Pass
Philip 240PW9 (1920x1200)		Pass
ViewSonic VX2433wm (1920x1080)		Pass
ViewSonic VP2365WB		Pass
ViewSonic VP2030b		Pass
Acer V233Hbd (1920x1080)		Pass
MicroTouch 3M		Pass
Dell 1704FPT		Pass
Dell 2001FP		Pass
Dell 2007FPb		Pass
Dell 2408WFPb		Pass
Hanns.G Hi221D		Pass
DELL 3008 WFP		Pass
<b>キーボード/マウス</b>		
Wyse Keyboard PS/2	X05-29403	Pass
Wyse USB keyboard		Pass
Cherry keyboard		Pass
Logitech MK520 Wireless keyboard/mouse	820-000368	Pass
Logitech EX100 wireless keyboard/mouse	S/N-K7050050	Pass
Microsoft wireless keyboard/mouse 4000	G83-6105IRNFR-2/05	Pass
Microsoft wireless keyboard/mouse 5000		Pass
Microsoft Business hardware pack,		Pass

wired keyboard/mouse		
BenQ BE800 wireless keyboard/mouse		Pass
Microsoft ARC keyboard + mouse		Pass
Microsoft Laser desktop 6000+mouse		Pass
Microsoft Wireless Optical Mouse 2000	X800598	Pass
<b>カードリーダー</b>		
ActivCard Smart Card Reader	ActivIdentity USB Reader	Pass
Omniquey Smart Card Reader	CardMan 3121	Pass
Cherry Smart Card Keyboard	RS 6700 USB	Pass
SCM Microsystems Smart Card Reader	SCR 335	Pass
Smart Card Reader	SCR 3310	Pass
Gemalto PC Twin USB Reader	HWP108765	Pass
SmartOn reader	ACS ACR122 注:SmartOn ID 利用時	Pass
<b>スマートカード/トークン</b>		
Etoken 72K		Pass
Etoken PRO 64K USB Key		Pass
Gemalto Cyberflex 64K Applet V1		Pass
Gemalto Cyberflex 64K Applet V2		
Gemalto.net card V2		Pass
Gemalto.net card V2+		Pass
SmartOn card	Felica Type 注:SmartOn ID 利用時	Pass
<b>その他</b>		
MCT USB-to-Serial converter U232-P9		Pass
MCT USB-to-Parallel converter 1284		Pass

### **既知問題/制限事項:**

1. 急激なウィンドウ移動や連続する ICA セッション移動により、ビデオ再生が正常に表示されなくなる場合があります。(TIR59002)
2. RDP マルチメディアリダイレクト機能を利用時、動画ビデオを急激に動かすと、描画差分が残る場合があります。(TIR59383)
3. ICA/RDP セッション内でウィンドウ内容をドラッグするオプションを選択した場合、ログオンテキストボックスの形状が変更されます。(TIR59432)
4. DA55 と DA60 ヘッドセットを利用した場合、「Sound」の「Recoard」タブなどへマウスを動かすとノイズが大きくなります。(TIR59194)
5. ログオン時に自動再接続を選択すると、表示名の色が白色になります。(TIR59948)
6. Ctrl+Alt+Down を連続的に利用すると、ウィンドウの表示色が正常に表示されない場合があります。(TIR59951)
7. R10L 利用時に、Windows 2008 への接続を実施した際に、一部の表示色が正常に表示されない場合があります。(TIR59377)
8. ICA/RDP セッションの再接続ダイアログボックスの操作がリブートとシャットダウンのカウンターに影響をします。(TIR59044)
9. PPPoE 利用時の警告「本当に切断しますか？」で、[No]ボタンでダイアログがクローズできない場合があります。(TIR59167)
10. User.ini ファイルで指定したローカルパスワードを謝って入力すると、バックグラウンドのデスクトップ画像が表示される場合があります。(TIR59915)
11. DP Error が表示される場合があります。(TIR59148)
12. H.264 のビデオファイルの再生中にとまる場合があります。(TIR59014)
13. PPPoE のデフォルトゲートウェア設定が利用できない場合があります。(TIR59137)
14. R10L で、解像度 2560x1600 を利用した場合、2 ポート目の VDI ポートが利用できません。(TIR59143)
15. 二つのメディアプレイヤーを利用した場合、方々のメディアプレイヤーの右下に緑色のラインが残る場合があります。(TIR59170)
16. 解像度によっては、RemoteFX の動画再生がセンター表示にできない場合があります。(TIR59287)
17. 特定アプリケーションを利用してフルスクリーン表示の RemoteFX を実施しようとする正常に表示されません。(TIR59064)
18. EAP-TLS マシン認証を実施する場合は、設定 INI ファイルが必要となります。(TIR59146)

## Appendix A: Wyse ThinOS 機能の補足説明

Wyse ThinOS で利用する主な機能に関する補足説明を行います。Wyse ThinOS の管理、設定の詳細については、「Administrators' Guide: Wyse ThinOS」をご参照ください。

概要:

1. USB ストレージ利用について
2. 設定 INI ファイル(WNOS.INI、User.INI 等)のコメント文内の日本語利用時の注意点
3. VMWare View 接続設定
4. Citrix XenApp/XenDekstop 接続設定
5. Wyse ThinOS 上で認識される周辺機器と USB リダイレクション機能について
6. スマートカードの利用に関して

#####

### 1. USB ストレージの利用について

画面転送型シンクライアントシステムでは、大きく二種類の USB ストレージ利用方法があります。各利用方法により、システム上で利用する場合の注意が必要となります。

表. USB ストレージデバイスの認識方法

認識方法	USB 認識場所	リダイレクト方法	備考
ドライブマッピング	ローカル (Wyse ThinOS)	ICA/RDPドライブマッピング機能	USB ストレージは、Wyse ThinOS ローカルで認識されます。仮想デスクトップやターミナルサービスなどのホストシステム上では、ネットワークドライブの方式で認識されます。
USB リダイレクション	リモート (ホストシステム)	TCX/HDX*	USB ストレージは、直接ホストシステムの OS 上のローカル USB デバイスとして認識されます。Wyse ThinOS 上の USB ストレージ(デバイス)が、ホストシステム上の USB ポートにリダイレクトされて認識されます。

\* TCX は、Wyse 社ソフトウェア製品「Wyse TCX Suite」を指します。TCX Suite 製品内の、TCX USB Virtualizer 機能により、USB リダイレクションが実現できます。HDX は、Citrix の HDX(ICA)プロトコル機能を指します。HDX USB Plug & Play の USB リダイレクション機能を指します。

## ドライブマッピング機能を利用する場合の注意点

ドライブマッピングを利用する場合は、Wyse ThinOS ローカルで、USB ストレージを認識します。本機能を利用可能なフォーマット等に関して、下記にまとめます。

### サポートフォーマット

- FAT16
- FAT32

注意: NTFS やその他形式でフォーマットされた USB ストレージはサポートされていません。これらサポートされていない形式でフォーマットされた USB ストレージを利用しても RDP/ICA セッション内でマッピングされません。

USB ドライブマッピング機能において、現在サポートされる製品は、SCSI/ATAPI コマンドセットと Bulk-Only Transport の転送プロトコルを用いた転送方式を有する USB ストレージ製品となります。

注意: 現在、SCSI/ATAPI コマンドセットと Bulk-Only Transport プロトコルは、USB ストレージで利用される一般的な転送の仕組みのため、通常意識することはありません。ご利用される USB ストレージ製品の仕様に関して、ご不明な点がある場合、製造元へお問い合わせください。

## 2. WNOS.INI ファイルのコメント文内の日本語利用時の注意点

Wyse Thin OS を管理するための設定ファイル wnos.ini ファイルには、文字列“#”の後に、コメントを記述することが可能です。これにより、各パラメータの内容や意味をコメント行で補足説明することが可能となります。

### 注意事項:

WNOS.INI ファイル内のコメント行の仕様として、マルチバイト文字列(日本語文字列)を利用する場合、コメント行の末尾に半角スペースを入れる必要があります。

WNOS.INI ファイル内で記載される情報は、WTOS 上で読み取られる際、通常の ASCII コードで処理されます。この際、特定の ASCII コードを含む場合、WTOS 側ではコメント行をパラメータとして読み取ろうとするため、正常に wnos.ini ファイル内のパラメータが動作しない場合が発生します。WNOS.INI ファイル内のマルチバイト文字列のコメント行を正常に WTOS に通知するためには、コメント行の末尾に半角スペースを入力する必要があります。

## 3. VMWare View 接続設定

WTOS を用いて、VMWare View Connection Server を利用した仮想デスクトップ環境を構築する場合、下記の三通りのいずれかの方法が可能です。

### ■ WTOS ローカル上の設定

[スタート]メニュー→[システム設定]→[ネットワーク]より、「ネットワーク設定」ダイアログを開きます。「サーバー」タブにある、「VDI ブローカー」のテキストボックスに、View Connection Server の HTTP/S の URL を登録し、WTOS を再起動します。

- **DHCP オプション機能の利用**

DHCP サーバー上の DHCP オプションタブ番号(コード)188 を作成し、データに View Connection Server の HTTP/S の URL を登録します。

- **WNOS.INI ファイルによる設定(ゼロコンフィグレーション)**

WTOS 管理サーバー上上で、WNOS.INI ファイルに下記のいずれかの設定を追記します (INI ファイル設定方法に関しては、スタートアップガイドを参照)。

- 1 台の View Connection Server からユーザーがログオンする方法

`VDIBroker="https://VDMConnectionServer URL"`

- 複数の View ConnectionServer リストからユーザーが選択する方法

`SelectServerList = VDI;リスト名- "https://VDMConnectionServer URL/"`

注意: Connection Server で、1 ユーザーに 1 つの仮想デスクトップを設定している場合、WTOS からのログオン後、該当の仮想デスクトップが自動的に起動します。View Connection Server 上で 1 ユーザーに対して複数の仮想デスクトップが設定されている場合、デフォルトでは、WTOS ローカルデスクトップ上に複数の仮想デスクトップアイコンが表示され、自動的な仮想デスクトップへの接続は実施されません。1 ユーザーに対して複数の仮想デスクトップを設定し、特定の仮想デスクトップ接続をログオン後に自動起動したい場合、View Connection Server 上でデフォルトのデスクトップ設定を実行し、自動起動用の仮想デスクトップを設定します。

#### 4. Citrix XenApp/XenDesktop 接続設定

Citrix XenDesktop, WebInterface/Desktop Delivery Controller を利用した仮想デスクトップ環境を構築する場合、下記の三通りのいずれかの方法が可能です。

- **WTOS ローカル上の設定**

[スタート]メニュー→[システム設定]→[ネットワーク]より、「ネットワーク設定」ダイアログを開きます。「サーバー」タブにある、「PNAgent Lite サーバー」のテキストボックスに、Citrix Web Interface/Desktop Delivery Controller)サーバーの HTTP/S の URL もしくは、IP アドレスを登録し、WTOS を再起動します。

- **DHCP オプション機能の利用**

DHCP サーバー上の DHCP オプションタブ番号(コード)181 を作成し、データに Web Interface (Citrix Desktop Delivery Controller)サーバーの HTTP/S の URL もしくは、IP アドレスを登録します。

- **WNOS.INI ファイルによる設定(ゼロコンフィグレーション)**

WTOS 管理サーバー上上で、WNOS.INI ファイルに下記のいずれかの設定を追記します (INI ファイル設定方法に関しては、スタートアップガイドを参照)。

## 1 台の Web Interface (DDC)からユーザーがログオンする方法

PNLiteServer= "https://Web Interface (DDC) URL" ¥

AutoConnectList=" Virtual Desktop Machine Name"

## 複数の Web Interface (DDC)リストからユーザーが選択する方法

SelectServerList = PNA;リスト名-"https://WebInterface URL/"

## 5. Wyse ThinOS 上で認識される周辺機器と USB リダイレクション機能について

Wyse ThinOS には、一般的に PC で利用される汎用的なドライバが格納されています。これにより、ローカルドライバをインストールすることなく各種デバイスをローカルで認識することが可能となります。本汎用ドライバは、Windows OS などの一般的な OS で利用される汎用ドライバを用いて、Wyse ThinOS 用に作り込まれています。

注意: 汎用ドライバは、Wyse ThinOS で開発されたものであり、Windows OS の汎用ドライバとの互換性を保証するものではありません。各種周辺機器を利用するためには、必ず事前の検証を実施してください。Wyse 社での基本テスト済みデバイスに関しては、ReadMe に記載してあります。

画面転送型シンクライアントシステムでは、プロトコル内(ICA/RDP)に、様々な方法で USB 周辺機器をホストシステム上で認識する機能が搭載されています。USB の各種認識方法により、システム導入時に、要件にあった USB 周辺機器の認識が行えるようにしてください。

表. Wyse ThinOS 搭載の汎用ドライバと動作について

ローカルドライバ	TCX/HDX 利用時*	備考
HID	ローカル (Wyse ThinOS)	キーボード、マウス、バーコードリーダー等の一般的なデバイスで利用されるドライバです。
Generic Audio Driver	ローカル (Wyse ThinOS)	スピーカー、ヘッドセット等のデバイスで利用されるドライバです。
Universal Video Driver	リモート (ホストシステム)	Web カメラ等のデバイスで利用されるドライバです。
USB Storage	リモート (ホストシステム)	USB メモリスティック、HDD などで利用されるドライバです。
CCID	ローカル (Wyse ThinOS)	スマートカードリーダーなどで利用されるドライバです。

\* TCX/HDX の USB リダイレクト機能を利用した際、該当 USB ドライバ/機器がデフォルトで認識される場所を示します。「ローカル」は、TCX/HDX USB リダイレクト機能を有効にした場合でも、デフォルトで、Wyse ThinOS ローカル上で認識されることを意味します。「リモート」は、TCX/HDX USB リダイレクト機能を有効にした場合、ホストシステム上で認識されることを意味します。

ム上に USB がリダイレクトすることを意味します。

導入するシステム環境においては、特定の USB デバイスに対して、TCX/HDX の USB リダイレクト機能を強制的に利用したり、または利用したくない場合が存在します。これらの各 USB デバイスの動作に関しては、設定 INI ファイルの設定により、USB デバイスの認識方法を決定することができます。下記表は、設定 INI ファイルのパラメータ説明です。

表. USB リダイレクト機能に対する USB 動作設定

パラメータ	説明
Device=vusb [ForceRedirect=DeviceID] [ForceLocal=DeviceID]	Device=vusb を設定することにより、USB リダイレクション機能で利用する USB 周辺機器の動作を決定します。  <b>ForceRedirect:</b> 指定した USB デバイスは、USB リダイレクションを利用した仕組みでホストシステムに認識されます。  <b>ForceLocal:</b> 指定したデバイスは、Wyse ThinOS のローカルデバイスとして認識されます。指定された USB デバイスは、TCX/HDX の USB リダイレクションによる仕組みではリダイレクトされません。  設定例: Device=vusb ForceRedirect=0x04f2,0x0112,0x03,0x01,0x01  ID の設定順は、下記となります。 <Vendor ID>,<Product ID>,<Class>,<SubClass>,<Protocol>  各種 ID 情報は、Wyse ThinOS のローカルイベント情報(システムログ)もしくは、Windows OS 内のデバイスマネージャなどで調査することが可能です。

## 6. スマートカードの利用に関して

シンクライアントシステムで、スマートカードを利用する場合、スマートカードリーダーとスマートカード/トークンの二つの点に注意する必要があります。これら二つの要素がシステム上で利用できる必要があります。

### スマートカードリーダー

Wyse ThinOS には、CCID ドライバが格納されています。このため、CCID 対応のスマートカードリーダーをローカルで認識することができます(検証済みデバイスは、ReadMe 参照)。

### スマートカード/トークン

Wyse ThinOS では、ReadMe に記載されているスマートカード/トークンが検証済みです。シンクライアントシステムでは、スマートカードリーダーが認識された場合でも、スマートカード/トークン内

のコマンド/データが正しくホストシステムと連携できる必要があります。また、コネクションブローカー(VMWare View Connection Server、Citrix WebInterface/DDC など)が、該当のスマートシステムに対応している必要があります。Wyse ThinOS は、クライアントローカルにスマートカード/トークンに関連するドライバやソフトをインストールすることはできません。

### スマートカード利用時の注意点

CCID 対応のスマートカードリーダーと対応しているスマートカードを利用することにより、ICA/RDP でサポートされるスマートカードログオン認証の仕組みを利用することができます。ユーザーは、スマートカードと PIN コードの組み合わせで、各システムへログオンすることが可能となります。

CCID や対応できないスマートカード/トークンを、TCX/HDX などの USB リダイレクション機能により、システム上で使いたい場合があります。この場合、USB デバイス(スマートカードリーダー+スマートカード)は、ホストシステムログオン後に認識する仕組みとなります。このため、Windows システムへのログオン認証のデバイスとしては、スマートカードを利用することができません。ただし、ログオン後の各アプリケーション認証には、利用することが可能となります。

**注意:** TCX による USB デバイスの利用に関しては、TCX Suite の ReadMe を参照ください。

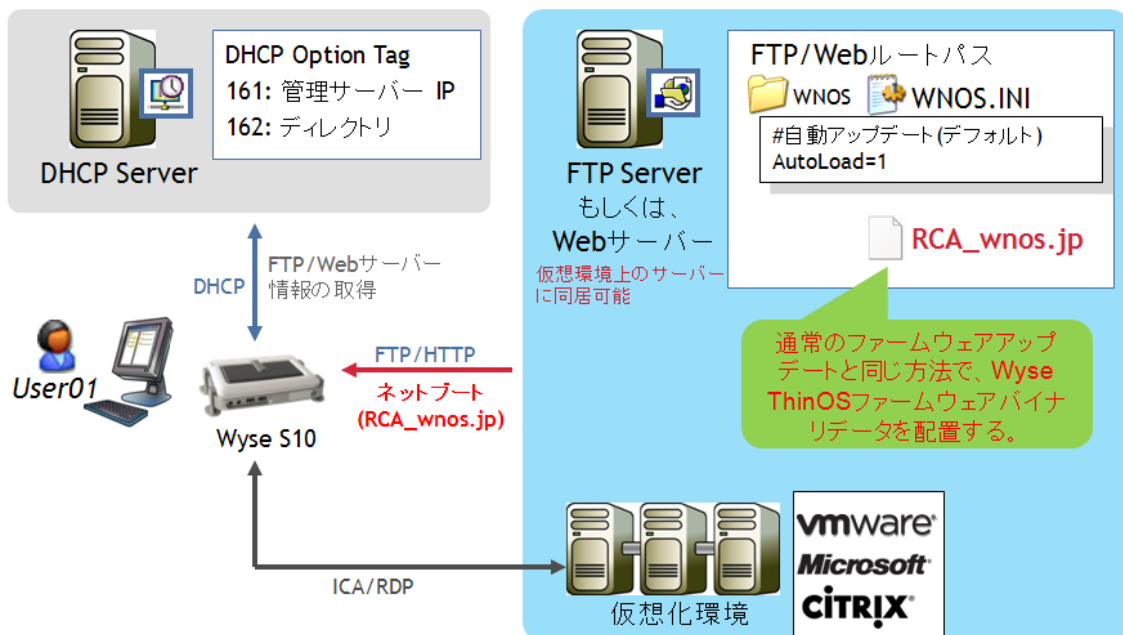
## Appendix B: S10 におけるネットブートの説明

S10 シンククライアント端末上で、Wyse ThinOS バージョン 7.0 を利用する場合、システム環境において注意が必要となります。S10 シンククライアント端末\*には、ローカルの Flash ROM が一切搭載されていないため、Wyse ThinOS バージョン 7.0 のバイナリデータをローカル ROM にインストール保存することができません。このため、S10 端末においては、設定 INI ファイルを配置する管理サーバー(FTP サーバー等)からのネットワークブートにより、Wyse ThinOS 7.0 を起動する必要があります。ファームウェアの配置方法等は、通常のファームウェアアップデート方法と同じとなるため、下記「Wyse ThinOS スタートアップガイド」の P.19「3. WTOS ファームウェアのアップデート」をご参考ください。

注意: 2007 年 5 月以前製造の旧 S10 端末は、ローカル Flash ROM を搭載しています。

「Wyse ThinOS スタートアップガイド」

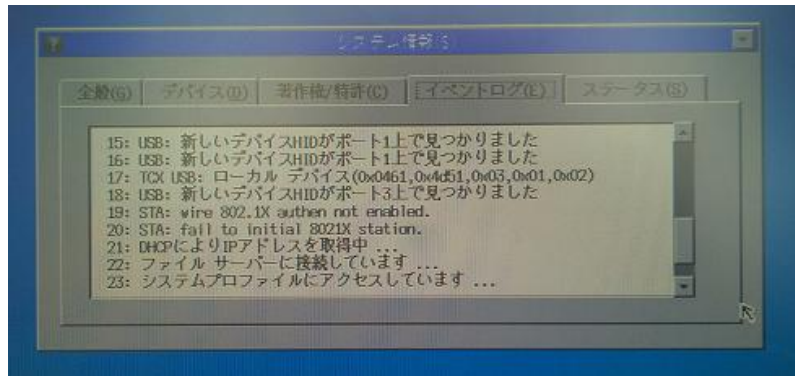
<http://www.wyse.co.jp/products/software/os/index.asp>



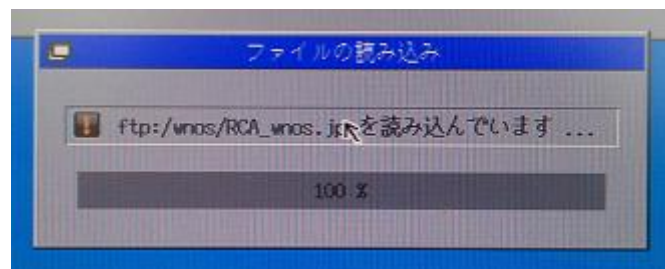
ネットブート時の

## S10 端末ネットワークブート起動時のシーケンス

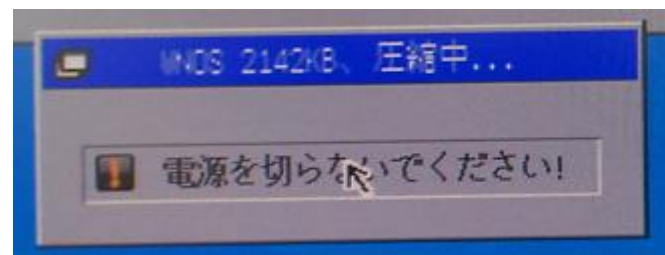
1. S10 端末を起動(デフォルト状態)中、システム情報ダイアログが出力されます。



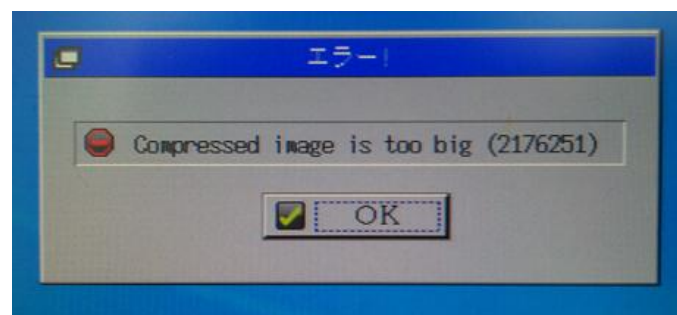
2. FTP サーバーの指定のディレクトリに、最新の RCA\_wnos.jp ファイルが存在し、アップグレードの適切な設定が実施されていた場合、ファームウェアのデータ読み込みを実施します。



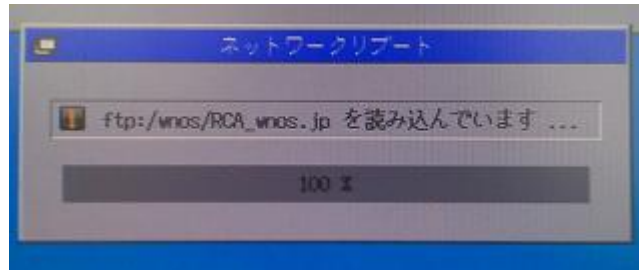
3. ローカル Wyse ThinOS 上でバイナリデータの確認を行います(下記ダイアログ)。



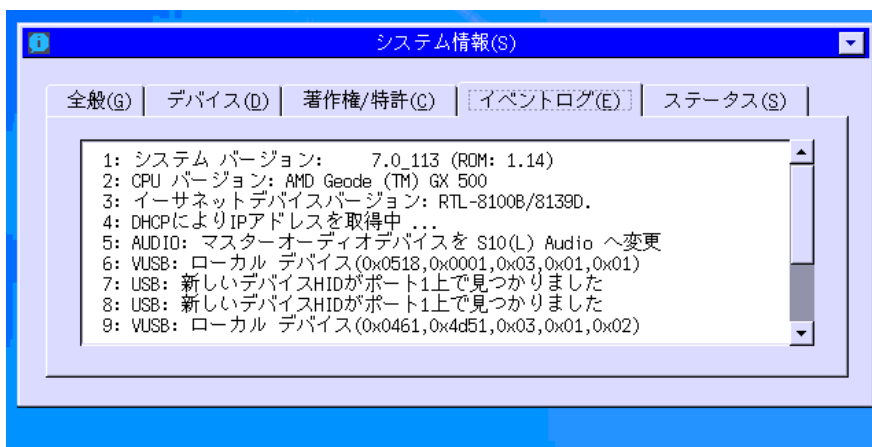
4. ローカル画面に、下記ダイアログが出力されるため、[OK]ボタンをクリックします。



5. ネットワークブートが開始されます。



6. Wyse ThinOS が再度起動し、バージョン 7.0.xxx で起動します。



補足:

ネットワークブートには、FTP サーバーからのファームウェアデータの転送(約 2MB)が、端末起動時に発生します。

EOF